

氏名	徳永常登
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第643号
学位授与の日付	昭和49年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Electrocardiogram and Vectorcardiogram in Isolated Complete Right Bundle Branch Block (単独完全右脚ブロックの心電図とベクトル心電図) Part I Clinical Studies (第1篇 臨床的研究) (第2篇 実験的研究)
論文審査委員	教授平木 潔 教授大藤 真 教授砂田輝武

学位論文内容の要旨

第1篇では、臨床で得られた「単独完全」右脚ブロック47例のフランク法ベクトル心電図を分類し、原因疾患とQRS環の分析結果とを比較検討した。水平面でのQRS環の回転方向の如何に拘らず、3平面でQRS環の右側後上方成分が強調され、心電図第Ⅱ誘導のS波が0.08秒以上のA群と、右側後上方成分が乏しく、心電図第Ⅰ誘導のS波が0.08秒以下のB群とに大別出来た。原因疾患の差異および1症例においてA群とB群とが間歇的に出没することから、両群の間には興奮伝播過程の差異があり、A群はB群に比し右室前壁側の伝導遅延があることが推測された。

第2篇では、雑種成犬20頭を用い、右脚を主幹、前枝、側枝、後枝に分けて、それぞれを鼓膜穿開刀で切断し、前後の心電図、ベクトル心電図を検討して臨床的研究で得た仮説を証明することを目的とした。その結果、主幹切断例のみQRS時間が0.08秒以上へと著しく延長し、犬の臨床的右脚ブロックと類似の心電図が得られたことにより、右脚ブロックは主幹の障害であると考えた。また人工呼吸下開胸心膜切開という操作だけで偶発的に臨床分類B群に似る右脚ブロックが得られ、これをA群に似たものに変えることが出来たので、両群の間には興奮伝播過程の差異があり、A群はB群より右室自由壁の前壁側の興奮伝導が遅延すると考えた。

論文審査の結果の要旨

本研究は、多数の右脚ブロックの臨床例のベクトル心電図を、ECGの所見を指標として二つの群に大別出来ることを知って考察を行ない、更に犬を用いて実験的にその考えの正しいことを証明したもので、学問上極めて価値の高い研究である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。